

# 「健康・スポーツ都市あばしり」を 世界に発信

**健康で安心なまちづくりへ  
「健康な」市民・経済・まち  
への取り組み**

網走市は今、「健康」をキーワードにまちづくりの方向を定め、健康で安心なまちづくりの政策を展開しています。「健康な市民」「健康な経済」「健康なまち」を創造していくことは、まちの明日への希望と活力を生み出す源です。

そのため、「健康・スポーツ都市宣言」の趣旨に基づき、暮らしの質を向上させるために、『網走市民健康づくりプランⅢ』を策定しました。これは、保健・医療など直接、人の健康にかかわる分野だけに限定せず、都市環境・自然環境など人の健康に影響を及ぼすあらゆる項目について取り組み、改善を目指すという考え方に基づいています。



WHO健康都市連合  
「網走市ロゴマーク」

地域づくりとして、健康政策に取り組むことは、市民の暮らしの質を向上させることであり、それぞれの人が自分らしく生きていくことができる網走を目指します。

## WHO健康都市連合に加盟 「健康な市民」へ向けて世界の の視点を

本市は平成24年に、WHO(世界保健機関)が提唱する「健康都市連合」の正会員として、北海道内では初めて加盟が承認されました。

これは、ヘルスプロモーション活動の考え方に基づき、本市の実情や抱えている課題を踏まえた将来構想を持ち、課題解決に向かって努力していることが認められたも

のと考えています。

加盟によって、健康づくりのノウハウや施策、その実績などをほかの都市と共有することができ、介護や医療を必要としない健康寿命を延伸するための網走独自の施策に反映させることができました。

生活習慣病予防を身近な地域で取り組むための指導者育成として健康コンシェルジュ「匠」たくみ認定制度を設け、健康づくりの裾野を広げることを目指すとともに、本年は骨折予防に有効な水中歩行ができる通年型のプールを建設します。

## スポーツ合宿誘致の成果で 「健康なまち」へ

本市は、北海道を代表するスポーツ合宿地として、陸上、ラグビーなど毎年多くのトップアスリートが練習に励んでいます。

トップアスリートの強化に必要なものとして、良好な練習環境、質の高い栄養と休養の3つが重要と指摘されており、本市にはその条件がそろっています。ラグビーのトップリーグ関係者から「日本の芝」と高い評価をいただいている競技場や、オリンピックの代表合宿にも活用されている多彩なランニングコースなどの練習環境が整い、冷涼な気候と温泉で質の高い休養が取れるので、ケガをせずにベストコンディションで試合に臨むことができます。そして、本市は海・山の食材の宝庫であり、おいしくて栄養価の高い良質なタンパク資源を取ることができます。

平成24年には、日本オリンピック委員会(JOC)が、全国2カ所に指定するリオ五輪に向けた陸上競技強化センターに本市が選ばれました。これは、施設面だけではなく25年間積み重ねてきたスポーツ合宿のノウハウが評価されたのだと思いますし、市民のスポーツ



網走を合宿地としている障がい者ノルディックスキーの久保恒造選手

として、健康度や障がいの有無などにかかわらず、ともに「する」「見る・聞く」「支える」リアフリー・スポーツの考え方を広め、深めることが重要です。

平成28年には、日本体育大学の特別支援学校高等部が開校します。スポーツ教育を中心とする私立の特別支

## 「障がい者スポーツ」を切り口に 高齢社会に対応するまちづくり

また、東京五輪と同時開催のパラリンピックに注目しています。本市出身の狩野亮選手や、網走を合宿地としている久保恒造選手などの金メダリストとの関係を強み

このように、先輩たちが切り開いた財産を発展させ、東京五輪に向けた合宿誘致を実現するためにも、まずは、リオ五輪や世界陸上北京大会、ラグビーW杯日本大会などへの準備と対応にしっかりと取り組むことが重要です。

## 「流水と豊かな大地がはぐくんだ文化」を世界に発信

本市では、流水を環境保全のシンボルとして、豊かな歴史・自然を未来への財産として保全するために、太陽光発電所の誘致をはじめ再生可能エネルギーの活用などに積極的に取り組んでいます。

また1300年前に独自の文化を発展させたオホーツク文化の代表的な遺跡である「モヨロ貝塚」や、ラムサール条約登録湿地「瀧沸湖」に開館した瀧沸湖水鳥・湿地センターでは、歴史や自然の保全とともに教育にも役立てる賢明な利用（ワイズユース）を進めています。

オホーツク海の流水明けとなる春にはウニやカニ、秋にはタラが

援学校創設は、全国でも初めてとなりますが、スポーツ教育を柱に職業教育と生活訓練を行うための開校準備を進めていますので、スポーツ振興と障がいの者の教育分野でのモデルとして新たな1ページが開かれるものと期待をしております。障がい者スポーツ振興を一つの切り口として、これからの高齢社会に向けたまちづくりに、その方向感を示すものと考えています。

おいしい季節ですので、食と観光の共生を具体化させていきます。さらに、網走沖がEU向けホタテの生産海域に指定されましたので、これまで以上に豊かな海の保全が必要が必要です。

農業では小麦に注目しています。高品質でトレーサビリティを明確にした小麦を小麦粉に加工することで、付加価値を高める取り組みに期待して日本最大級の乾燥調製

## プロフィール

- ◆ 面積 471.00km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万8233人
- ◆ 世帯数 1万8576世帯



網走市長  
水谷洋一

〔将来都市像〕豊かなオホーツクに活気みなぎるまち 網走

〔まちの特徴〕オホーツク海に面し、流水接岸の最南限に位置し、流水到来によって特色ある風土や文化がつけられてきた地域

〔特産品〕オホーツク網走ザンギ丼、網走モヨロ鍋、網走ちゃんぽん、行者



菜、フルーツまたたび、釣りキンキなど

〔観光〕モヨロ貝塚、瀧沸湖水鳥・湿地センター、オホーツク流水館・天都山展望台、網走スポーツ・トレーニングフィールド

〔イベント〕オホーツクあばしりツデーマーチ、あばしりオホーツク夏まつり、あばしりオホーツク流水まつり、北の新大陸発見! あったか網走

貯蔵施設や、船積センターを整備しました。

このような第1次産業の強みを生かし、スポーツツーリズムなどの取り組みによる地域経済の活性化や、障がい者スポーツを切り口とした高齢社会に対応できる健康なまちづくりに夢を持って挑戦していくとともに、それをJOCやWHOなどを通じて世界に発信していきたいと考えています。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 「みんなが住みたい 素敵なまち」の 実現に向けて

### はじめに

稲敷市は、茨城県の南部、首都東京より60km圏に位置しています。本市の北側には国際的な研究学園都市・つくば市を、南側には国際拠点空港を有する成田市を擁しており、現在整備が進められている首都圏中央連絡自動車道（圏央道）により、この他横浜市、厚木市、八王子市、川越市などの中核都市とは、平成27年度に結ばれる予定です。稲敷台地と広大な水田地帯からなり日本第2位の面積を誇る霞ヶ浦をはじめ、雄大な利根川や小野川などの水辺環境と温暖な気候に恵まれた地域であります。

市内には、県内で最多となる9つのゴルフ場があり、連日多くのゴルフファンが訪れ、また、市内全域でブラックバスやフナなどの釣りが楽

しめ、釣りのメッカとしてシーズンには多くの釣り客も訪れます。毎年8月に開催される「いなしき夏まつり花火大会」は、県内最大級の打ち上げ数を誇り、市内はもちろん、近隣市町村や他県からも来場いただき、大変な賑わいを見せます。

広大な水田では、稲敷市の代名詞でもある水稲が作付けされており、関東屈指の穀倉地として首都圏の食糧供給地の役割を果たしています。ほかにも銘柄産地である「かほちゃ」や「レンコン」は、市場でも高い評価をいただいております。

### がんばれ茨城ゴールデンズ

タレントの萩本欽一さんが設立した社会人野球チーム「茨城ゴールデンズ」は稲敷市が本拠地となっています。平成22年10月から

は、片岡安祐美さんが新監督に就任し、新生ゴールデンズとして頑張っています。全日本クラブ野球選手権を2連覇した実績もあり、名実ともに日本一のクラブチームであります。練習風景や練習試合などを自由に観覧することができます。選手を身近に感じることができます。大会などへの参加時には後援会を中心に多くの市民が応援に駆けつけます。また、市内のイベント開催時には選手にも積極的に参加をいただき、イベントを盛り上げていただいております。ゴールデンズがさらに活躍できるように、市も全面的にバックアップを続けてまいります。

### 震災からの復興

稲敷市民が忘れることができない出来事は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により未曾有の被害を受けたことでもあります。市南東部の低地に被害が集中し、ライフラインや家屋の損壊、そして農地の液状化など甚大な被害を受けました。

ライフラインの応急的な復旧は約1カ月で完了しましたが、特に農地や農業用施設が受けた被害は県内でも最大規模であり、約500haもの農地で水稲の作付けができなくなりました。関係機関の協力をいただきながら懸命に復旧作業に当たった結果、翌年には被害を受け



名実ともに日本一のクラブチーム「茨城ゴールデンズ」

たほとんどの農地で、水稲の作付けを行うことができました。

また、復興の機運を高めるために、平成23年、24年には被災地で「いなしき復興祭」を開催し、市内外の企業や団体に参加をいただき、本市の農産物を使った「いなしきフードグランプリ」を行い、大勢の市民の皆さんにお越しいただくことができました。

おかげをもちまして平成25年中には、大震災からの完全復旧を成し遂げることができました。

### 圏央道の有効活用

本市は少子高齢化が進展し、これにより人口が減少しています。平成



東日本大震災からの復興の機運を高める目的に開催された「いなしき復興祭」

17年の町村合併時には5万人ほどいた人口も、現在では4万4337人になり、約9年間で10%以上も減少してしまいました。この人口減少問題を何とか解決しなければなりません。

そこで、現在整備が進められている圏央道をまちづくりに生かしていきたいと考えています。茨城県内の整備状況については、常磐自動車道から東関東自動車道に向けて整備が進み、平成19年3月には稲敷インターチェンジまで開通しております。平成26年4月には市内2カ所目となる、稲敷東(ひがし)インターチェンジ、そして利根川を越え千葉県県神崎インターチェンジまで開通し、平成26年度内には、東関東自動車道に接続する予定であります。

稲敷インターチェンジ近くにある江戸崎工業団地へは圏央道の開通効果により、平成24年から順調に企業誘致が進んでいますが、さらに企業誘致を進めることで、雇用を確保し稲敷市への定住者が増えるよう、人口減少問題の解決に向けて努力してまいります。

また、本市を発展させていく上では、人づくりを欠かすことができません。市独自の取り組みとし

て、平成25年度から職員提案制度を実施しております。これは、職員の職務意識や政策形成能力を高め、事務の合理化や市民サービスの向上に資する提案をしてもらうもので、全職員を対象として実施し、さまざまな提案をいただいたところであります。さらには、各年代ごとに選抜した職員を3つのグループに分けて、それぞれ取り

組むべき事業のテーマを決め、幹部職員へプレゼンテーションも行いました。有効で実現可能な提案は、どんどん取り入れていきます。職員の意識改革を進め、資質の向上に努めてまいります。

市が掲げる、「みんなが住みたい素敵なまち」の実現に向けて、これからもさまざまな取り組みを続けてまいります。

### プロフィール

- ◆ 面積 205・78 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 4万4337人
- ◆ 世帯数 1万4801世帯

〔将来都市像〕 みんなが住みたい 素敵なまち

〔まちの特徴〕 稲敷台地と広大な水田地帯からなり、霞ヶ浦や利根川など豊かな水辺環境を有する。平成26年度に常磐道と東関東道が圏央道で接続される

〔市町村合併〕 平成17年3月22日(江戸崎町、新利根町、桜川村、東町が



稲敷市長 田口久克



新設合併する)

〔特産品〕 かぼちゃ、レンコン、ミルキークイーン(米)、ブルーベリー、ブロッコリー、いちご、イチジク、あげ餅

〔観光〕 江戸崎農業公園ポティオンの森、茨城ゴルフデンゴーズ、横利根間門ふれあい公園

〔イベント〕 稲敷チューリップまつり、稲敷市ふな釣り大会、江戸崎祇園祭、寝釈迦の花まつり、いなしき夏まつり花火大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 住んでよし、働いてよし、訪れてよしの 「選ばれるまちづくり」を推進

### はじめに

舞鶴市は、京都府の北部に位置し、海、山、川など豊かな自然に恵まれ、若狭湾に面した天然の良港として栄えてきました。

市のほぼ中央にある五老岳からは、東西の市街地と変化に富んだ海岸線が織りなす美しい自然景観を見ることができ、その景観は「近畿百景第一位」に選ばれております。

西地域は、戦国時代の武将で当代一流の文化人でもあった細川幽斎とその子忠興が築いた田辺城や城下町の古い町並みが残り、東地域には旧海軍ゆかりの赤れんが倉庫群などの近代化遺産、そして、戦後の海外引揚事業やシベリア抑留などに関する貴重な資料を展示した舞鶴引揚記念館など多くの歴史的資源があります。さらには、

造船業や窯業をはじめとするすぐれたものづくり産業や、万願寺甘とう、舞鶴かにといった農水産資源など、多くの魅力ある地域資源を有しています。

### 赤れんがのまち

本市には、明治34年の旧海軍舞鶴鎮守府の開庁に伴い、旧海軍が建設したものを中心に、多くの赤れんが建造物が残っており、「赤れんがのまち」ともいわれています。

特に東地区の北吸に残る明治期から大正期に掛けて建てられた12棟の赤れんが倉庫群は、100年あまりの時を経た現在も当時の姿を残し、特色ある景観を形成しており、このうち8棟は平成20年に国の重要文化財に指定されました。この赤れんが倉庫群を観光の戦略拠点とするため、そのうちの5

棟を改修し、一帯を「舞鶴赤れんがパーク」として平成24年5月にグランドオープンしました。

赤れんが倉庫は、音楽・アートイベントの会場や、「坂の上の雲」をはじめとした映画やテレビのロケ地として活用されてきたほか、最近ではオンラインゲーム「艦隊これくしょん」の聖地として若者が集うなど、世代を問わず親しまれており、多様な連携による赤れんがを生かしたまちづくりが進んでおります。

### 京都と結ぶ海の道

本市の歩みは海とともにあります。約5300年前には、丸木船を使って島根県や石川県まで往来する交易が行われていたとされており、江戸時代には北前船の寄港地として、明治期には海軍のまち

として、戦後は平和産業港湾都市として発展してきました。

現在は、国の日本海側拠点港に指定された京都舞鶴港を、関西経済圏における東アジアとのゲートウェイ機能を果たすため、「人」「モノ」の交流の促進、港の整備・振興に取り組んでいます。

平成25年は、7万tを超える大型クルーズ客船「サン・プリンセス」「コスタ・ビクトリア」が京都舞鶴港に相次いで寄港し、数多くの外国人観光客が舞鶴の港を訪れました。入港に当たっては、市民の皆さまと「おもてなし」の気持ちを持って、まち全体で歓迎ムードを作り、観光客をお迎えしました。結果、そのきめ細かな対応は高く評価され、京都舞鶴港が「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2013」の特別賞を受賞いたしました。本年は11万t級のクルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」をはじめ、13回のクルーズ客船の寄港が予定されております。



クルーズ客船と丹後富士

日本を目の前にして涙が止まらなかつたといひます。舞鶴港に入港し、平棧橋から上陸した引揚者たちは、出迎えた家族と言葉を交わしながら涙の

また、7月には海に親しむ環境づくりの推進や海への関心を喚起することを目的に開催される大規模なイベント「海フェスタ京都」が本市を中心に京都府北部5市2町で開催されます。これら大きな好機をとらえ、国内外の多くの方に舞鶴の魅力を発信し、「人」「モノ」の流れを増大するための取り組みを進めていきたいと思っております。

## 引揚の史実を世界へ

舞鶴は、終戦から13年もの長きにわたり「引揚港」として、主に旧ソ連のシベリアや旧満州から約66万人と、1万6000柱の遺骨を受け入れてきました。引揚船が丹後半島に差し掛かると引揚者たちは、夢にまで見た緑豊かな祖国

再会を果たしました。その一方で、引揚船が入港するたびに帰らぬ息子の姿に思いを馳せて棧橋に佇む母の姿が人の目に留まるようになりました。この姿が「岸壁の母」と呼ばれるようになり、「岸壁の母」の歌とともに「引揚のまち」として全国に知られるようになりました。こうした海外引揚と抑留の史実を次世代に伝え、恒久平和の大切さを語り継ぐため、昭和63年には舞鶴引揚記念館を開館し、抑留者の厳しい生活を物語る木の皮につづった日誌や身の回り品、岸壁の母のモデル端野いせさんの写真や思い出の品々をはじめとして全国から寄贈を受けた約1万2000点の貴重な資料を展示し、平和へのメッセージを広く発信してきました。しかしながら戦後約70年が経過し、戦争を知らない世代が増え、引き揚げの史実が風化しつつあることから、その史実を後世に継承し、平和の尊さを世界に発信するため、引き揚げに関する資料の「ユネスコ世界記憶遺産」への登録を目指した取り組みを進めています。

## むすびに

多彩な地域資源は舞鶴の宝であ

り、これらを最大限に活用した取り組みを進めることで、まちが元気になり、将来に向かって夢や明るい展望が開けてくると確信しております。

先人たちが築き上げてこられた精神を忘れることなく、市民と行政がともに知恵を出しながら、住ん

## プロフィール

- ◆面積 342・35km<sup>2</sup>
- ◆人口 8万5955人
- ◆世帯数 3万5421世帯

〔将来都市像〕東アジアに躍動する国際港湾・交流都市 舞鶴

〔まちの特徴〕城下町として発展した西舞鶴と旧海軍の軍港として発展してきた東舞鶴の2つの市街地を持ち、それぞれが独自の文化・風土を持つ複眼都市

〔特産品〕丹後とり貝、舞鶴かまぼこ、ちくわ、舞鶴かに、わかめ、いさご、アカガレイ、かき、岩がき、万願寺甘とう、佐波賀だいこん、アルギツ



舞鶴市長  
多々見良三



トぶどう、舞鶴茶、大杉（日本の名水百選で作られる日本酒）

〔観光〕舞鶴赤れんがパーク、五老ヶ岳公園、田辺城、引揚記念公園、舞鶴親海公園、エルマールまいづる、吉田のしだれ桜（瑠璃寺）、松尾寺、金剛院、安寿姫塚、海軍記念館、海水浴場

〔イベント〕まいづる田辺城まつり、みなと舞鶴ちゃった祭、まいづる魚まつり、赤れんがアート&クラフトフェスタin舞鶴、舞鶴赤れんがハーフマラソン、仏舞、城屋の揚松明、吉原の万灯籠

\*面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# 「千万年光りかがやく真の友情」 人とのつながりを大切にしたい優都あらお

**自然と歴史あふれる優都  
荒尾市**

荒尾市は、熊本県の西北端に位置する人口5万5000人規模の市であり、北は福岡県大牟田市、東は小岱山(501m)山頂を境として玉名市、玉名郡南関町・長洲町に接し、西は有明海を隔てて長崎県、佐賀県に面しています。地形は、東の小岱山から西の有明海へとなだらかに起伏し、河川は小岱山から西流あるいは南流しながらいずれも有明海に注いでいます。



万田坑第二豎坑櫓と巻揚機室

温暖で、自然災害の少ない本市では、この環境を生かした特産品の「荒尾ジャンボ梨」などの栽培や、有明海の遠浅を生かした海苔養殖やアサリ漁などが盛んです。

有明海の荒尾干潟は、単一の干潟としては国内有数の広さを誇り、豊かな生態系が形成されています。特に国内有数のシギ・チドリの飛来数があり、国指定鳥獣保護区特別保護地区に指定されており、国際的に重要な湿地として平成24年7月にラムサール条約湿地に登録されました。

また、本市は国内最大級の出炭量を誇った三池炭鉱とともに発展した歴史がありますが、石炭産業の斜陽化に伴い、平成9年、炭鉱は閉山しました。しかし、その中でも本市北部に位置する三池炭鉱万田坑は、遺構が良好に残されています。

たことから、平成10年に国重要文化財、平成12年に炭鉱遺跡としては初めて国史跡に指定されました。さらに、万田坑を含め、幕末から明治期の日本における重工業分野(製鉄、造船、石炭産業)の急速な産業化の発展過程を、時間軸に沿って理解することができることから、

8県11市による「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」として、ユネスコ世界文化遺産へ政府より推薦されることが今年1月17日に閣議決定され、1月末には推薦書が提出されました。今後登録に向け邁進してまいります。このように本市は、自然豊かな環境と誇るべき歴史遺産を有する魅力ある地域です。

## 宮崎兄弟と孫文のつながり

本市には、このような魅力に

え宮崎兄弟の生家という施設があります。

この施設は、宮崎八郎、民蔵彌蔵、滔天の自由民権思想を掲げ活動した兄弟たちを顕彰し、県史跡に指定されています。特に滔天は、明治44年の中国辛亥革命成功に至る過程において転機となった、中国同盟会設立の立役者で、その指導者の孫文を物心共に援助し、生涯の友情を貫いたことで知られ、孫文もこの生家に明治30年と大正2年に訪れました。

そこで本市は、平成5年に茅葺屋根の日本家屋の生家を整備し、現在一般公開しております。

この生家の庭には、孫文と滔天らの集合写真に写っているといわれている梅の古木が現存し、近代日中友好の原点ともいえる場所です。敷地内には、資料館を併設し、

宮崎兄弟の活動に関する歴史資料や、孫文と宮崎家の深い交友を示す孫文直筆の書などを展示しています。

このような、孫文との深いかわりから本施設には、中国語圏から多くの方が視察や見学に訪れています。

## 辛亥革命100周年における取り組み

辛亥革命100周年のプレイベントとして平成22年には、孫文と宮崎滔天との友情の歴史を、国内外に広く顕彰するために、本市と上海市人民対友好協会および上海市孫中山宋慶齡文物管理委員会との共催で、上海孫中山故居纪念馆所蔵の孫文の生涯を描いた絵画60点と宮崎兄弟資料館が所蔵する



荒尾村での宮崎兄弟親族等と孫文との集合写真(大正2年)

史料の展示会を、本市において開催しました。

そして辛亥革命100周年の平成23年には、生家の庭の梅の古木から接ぎ木した苗を、友情の梅として中華人民共和国駐日本国大使館や同国駐福岡総領事館などに植樹を行うとともに、記念シンポジウムや、市民参加型の創作ステーション「滔天と孫文」の公演を行うなど、100周年を行政と市民が一体となって盛大に盛り上げました。

## 宮崎兄弟の生家施設を通じた国際交流

本市は、昭和54年から中国各都市との交流を行っていますが、辛亥革命100周年を契機として、宮崎兄弟と孫文の交友の歴史を足掛かりに、中国語圏との交流が活発になっており、中国の中学校教師の本市への研修訪問や本市中学生の上海でのホームステイ交流なども行っています。

さらに平成25年9月には、中華人民共和国駐日本国大使の程永華氏が歴代の大使として初めて宮崎兄弟の生家に来館され、また、同月開催しました宮崎兄弟の生家の開館20周年を祝う記念式典におい

ては、同国駐福岡総領事館から李天然総領事が来賓として参加されました。

そして、平成25年5月から12月初頭までシンガポールの孫中山南洋記念館主催の企画展「孫中山、日本とシンガポール」へ宮崎兄弟の生家から史料協力をを行い、その開幕式にも参加しました。また、台湾においても國父紀念館を訪問し、今後の交流について話し合いました。現在は、3月末まで上海市におい

て「孫文と日本人宮崎滔天―学術交流活動および史料展」を、同市、熊本県などと共催で開催中です。

昨今の日中関係は残念ながら円滑なものとは言えませんが、宮崎兄弟と孫文の交友の歴史は不変です。今後も本市は、来訪の折に孫文が述べたとされる「千万年の友情」という言葉を大切にして、地方レベルでのさまざまな交流を進め、郷土の偉人宮崎兄弟の志を継承していきたいと考えております。

## プロフィール

- ◆ 面積 57・15 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 5万5257人
- ◆ 世帯数 2万4135世帯

〔将来都市像〕「しあわせ 優都 あらお」

〔まちの特徴〕小岱山から有明海への緩やかな稜線の中に世界に誇る自然歴史、文化、産業が凝縮されたまち

〔特産品〕荒尾ジャンボ梨、小代焼、



荒尾市長  
前畑淳治



マジック、有明海産海苔、メロンパン、焼酎「小岱」、荒尾オリーブ

〔観光〕グリーンランド(遊園地)、万田坑、宮崎兄弟の生家、荒尾干潟、岩本橋、トキワマンサク

〔イベント〕あらお荒炎祭、荒尾マジック釣り大会、さのよいファイヤーカーニバル、のばらさん、こくんぞさん

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。